

1 市民アンケートについて

(1) これまでの経過

- 第五次総合計画の策定作業にあたり、市民の皆様のご意見を反映させるため、平成24年度より「市民意向調査」として開始
- その後、総合計画の進行管理として、隔年で市民アンケートを実施（～令和4年度）
- 設問は平成24年度開始時に検討された内容であり、過年度比較を行うため、これまで変更されていない
- また、当時、各公民館（現コミュニティセンター）での地域づくり計画策定を見据えていたこと、協働のまちづくりといった視点から設問内容に「地域活動への参加」の項目を設定



この10年間で、市民のまちづくりへの参画や社会動向等が大きく変化してきていることなどを踏まえ、第六次総合計画がスタートしたことに伴い、現在に即した内容に見直す必要があるのではないか

(2) 変更の内容

【市民アンケートの構成】

令和4年度市民アンケート調査まで

長井市の“住みやすさ”について (定住意向・幸せ・地域活動への参加)
長井市の取組みについて (第五次総合計画の基本目標ごと)
個別分野の質問(各課より)
あなた自身について(回答者の属性)



令和6年度市民アンケート調査

あなた自身について(回答者の属性)
長井市での暮らしについて (地域幸福度(Well-Being)指標)
長井市の取組みについて (第六次総合計画の基本目標ごと)
個別分野の質問(各課より)

2 地域幸福度 (Well-Being) 指標について

地域幸福度 (Well-Being) 指標とは・・・

- デジタル田園都市国家構想の実現に向け活用することを目的に、デジタル庁・一般社団法人スマートシティインスティテュートが示した指標。
- 客観指標（各種統計データ等）と主観指標（アンケート調査）のデータをバランスよく活用し、市民の「暮らしやすさ」と「幸福度 (Well-being)」を指標で数値化・可視化したもの。

(1) 「しあわせ」について

➤ これまでの市民アンケート

「しあわせ」の要因として次の4つを設定（当時の荒川区政世論調査等を参考）

「暮らし」「安心・安全」「地域とのつながり」「生きがい」

➤ 地域幸福度 (Well-Being) 指標

「しあわせ」の要因として次の3つを設定

「生活環境」
「地域の人間関係」
「自分らしい生き方」



さらに24のカテゴリーに細分化

カテゴリー名称		
生活環境(16)		地域の人間関係 (2)
医療・福祉	公共空間	地域とのつながり
買物・飲食	都市景観	多様性と寛容性
住宅環境	自然景観	自分らしい生き方 (6)
移動・交通	自然の恵み	自己効力感
遊び・娯楽	環境共生	健康状態
子育て	自然災害	文化・芸術
初等・中等教育	自己・犯罪	教育機会の豊かさ
地域行政		雇用・所得
デジタル生活		事業創造

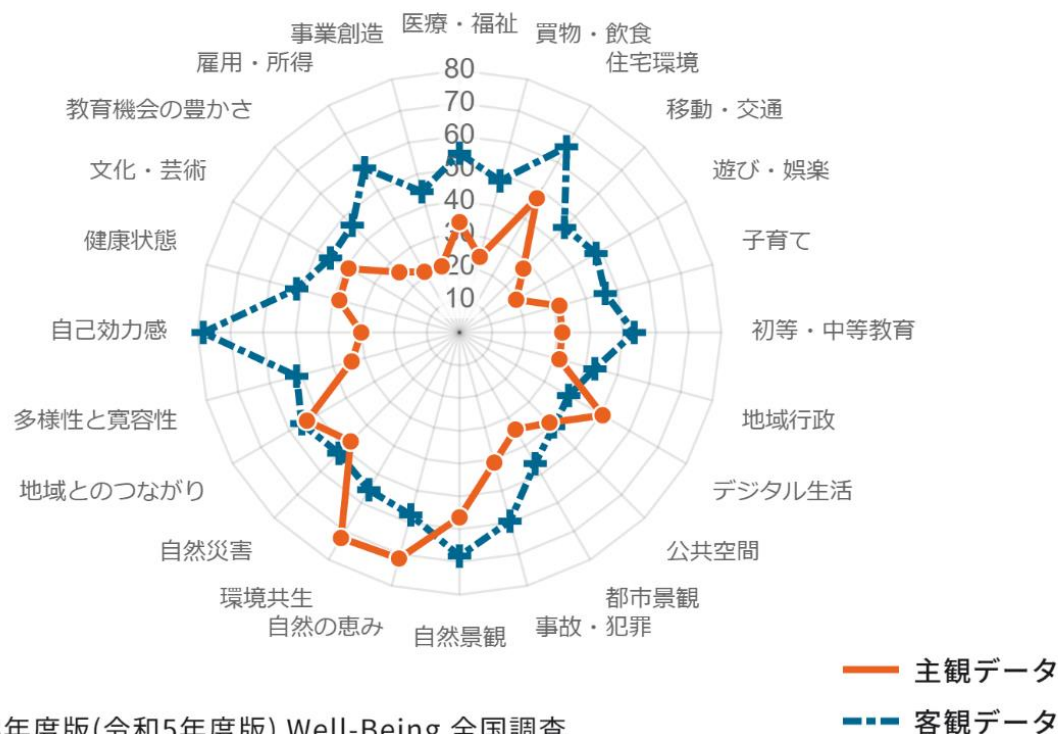
(2) 地域幸福度 (Well-Being) 指標の設問について

- 「暮らしやすさ」は24のカテゴリーごとに1～5の選択肢を設定、計46の設問
- 加えて「幸福度」に関して4つの設問を設定し、合計で50の設問を設定
- 設問内容はデジタル庁が示すものと同様の内容

※結果の参考例

カテゴリー別

(デジタル庁・スマートシティインスティテュート公表)



【出典】2023年度版(令和5年度版) Well-Being 全国調査

※ 客観データについては、各省庁などで公表されている各種統計データ等により算出されているが、データの計測時期のばらつきや最新数値ではないこと、自治体単独で算出できる数値ではないことから、長井市では主観データ(アンケート調査)のみの活用